

2月22日ウミガラス保護増殖検討会資料へのコメント
北海道立総合研究機構環境科学研究センター 長 雄一

資料が良くまとまっており、ウミガラス等の繁殖状況がよくわかりました。

資料1-2の1ページからの越冬期海上調査は、文中に書いてあるとおり、当該海域は越冬域として重要であるため、今後の海上風力発電等の拡大を考えても、重要な調査と考えます。この海域は、水産試験場の調査船で海鳥類調査をしたのですが、1日中見ていてもばらつきがありました。継続ください。

同じく5ページのCCDカメラによる繁殖モニタリングは、この事業の中でも最重要と考えます。前にも言いましたが、予算の範囲内で台数を増やすことを検討ください。あと、インターバルカメラのコストはいかほどでしょうか？リアルタイムに確認できない欠点がありますが、増やして、CCDカメラ故障時の補助に使うことを検討ください。

カメラ及び電源に関する技術的改良に関しても、安定感が増しており、関係者の尽力に頭が下がります。引き続きの改良をお願いいたします。コード等の損傷に関しては、ケプラー等のコードがあれば良いのですが・・・6ページ最後の不具合に関しては、塩が悪いと思われるので、アルコール等で接続点を拭く等はいかがでしょうか？海岸線での電気工事に強い人に聞いてみるのも手では？

8ページの図5は力作です。長年係わってきたものとして感無量です。Rの部分で、密度が高まってくれば、多分、繁殖成功率は高まるような気がします（集団防衛が効いてくる）。今後はOエリア、さらにその先に拡大するかと思われます。他の岩にも営巣地が拡大することを希望しますが、捕食者対策が重要となってくるかと思われます。

同じく8ページのDNA試料も重要です。予算があるのなら、一度、DNA抽出が可能なのか試して見るのも良いかと。

9ページの捕食者対策の前と後での巣立ち成功率の比較はたいへん重要であり、この事業の「最大成果」でもあります。10ページの図6を見ても、捕食者対策前と後では、巣立ち雛数の伸びが異なるように感じます。捕食者対策は、オオセグロカモメに関しても継続して進めるべきと考えます（1000羽くらいに回復すれば、集団効果が期待できるようになりますので、これが目標ですかねえ・・・）。

9ページに戻りますが、壁沿いとそうでないところでの成功率の違いも重要です。これをあ

げることが次の課題ですかねえ・・・モーションカメラを増設して、繁殖地の拡大をモニター出来るように努めてください（10台くらいあると良いですねえ・・・）

12ページのとなりの親に雛がつつき殺されるというのは、自然界でもあることなのですが、何らかの攪乱でも生じますので、注意が必要かと思われます。

17ページの再設置に関しては、その方向性で来年もお願いいたします。現場判断でも結構です。

19ページの72～81つがいマックスというのは、少ない感じですけど、マックスになれば横に広がる、あるいは別の岩に営巣地が分散化されるということですよね。

21ページの捕食者対策は引き続き継続をお願いいたします。オオセグロカモメに関しては、繁殖地限定の緊急措置ということで継続してください。

同じく21ページからのカラス類個体数調査ですが、私も内陸部で行ったことがあります。10月くらいならねぐらが形成されているはずなので、それに入るあるいは出る個体をカウントするという方法で、地域の生息数を出してました。かなりたいへんですけど・・・

24ページにあるカラス類が天売島に100羽いるということですが、やはりかなり多いという印象です・・・ユルリ島だと、多分3つがい程度で10羽くらいだと思いましたので（調査してませんが）、人間活動（ゴミあるいは漁業残滓）により増えたのでしょうか。なので、ウミガラス対策のみならず、減少措置を行うべきと考えます。

巣の位置把握及び巣落としては、たいへん良いかと思います。あと、釧路管内のある町は、銃器で巣内の成鳥とともに幼鳥も撃っておりました。また、はこ畷で年間500羽くらいとっている町もあります。餌はシカの内臓でした。参考まで。

あと、カラスは営巣期は隠れる傾向がありますので、それで観察数が少ないかもしれません。

27ページの表も重要です。多分、オオセグロカモメの侵入が近年0なのは、駆除効果と思われれます。カラスに関しては、駆除圧をあげることも検討すべきと思いました。

29ページの図は力作ですね。31ページからの付表も力作で、たいへんだっとうかと思われています。来年以降も引き続き作成ください。

資料3に関していうと、この方向でまったく問題はありません。葛西水族園が申請してくださいました助成金や、マリンワーカー事業に関しては、たいへん感服いたしました。継続して予算が付くことを祈願いたします。

5. その他の(2)なのですが、葛西水族園さんとの連携を深め、東京でもウミガラスの現状と取り組みに関して、発進してもらい、海外の方を含めて情報発信してもらえるとうれしいと感じました。

以上ですが、何かありましたら、メールにて問い合わせください。